町制施行50周年特集

昭和42年3月1日、上ノ国村から上ノ国町へ

上ノ国町は、今から50年前である昭和42年3月1日、町制が施行され今日に至ります。

町制は、前年の村議会での議決により、当時上ノ国地区にあった村役場庁舎内にて宣言されました。

それから50年、まちでは様々なものが生まれ、また消えていきましたが、今日を生きる私たちは、これまでのまちの記憶を継承し、さらに未来へと繋いでいかなければなりません。

この特集では、上ノ国の大きな転機となった町制施行50年史に焦点を当て、改めてそれらを見つめ直し、これからの50年に繋げる礎として、本町の歩みを年表や当時の写真を用いてご紹介していきます。

昭和42年3月1日　2

きょうから上の国町に

輝やかしきスタートにあたり
上ノ国町長　沢村才蔵

村民多年の念願でありました本村の町制はいよいよ本日から施行されました。わが上ノ国は、開基五〇〇年の歴史をいっそう輝やかしいものとして飛躍的発展のスタートを切ったわけでございます。

今ここに町制施行に当たりわが上ノ国の開祖武田信広以来幾星霜風雪に耐え、困苦をしのび来りし先人諸兄にうやうやしく報告し、遠大なる功績に心から感謝申し上げるものであります。今や町勢の各分野にわたり着実な上昇をつづけておりますとき町制の施行をみましたことは一万三千町民に希望と勇気を与えたと申すべきでありましょう。この町制施行を契機としていっそう町民の団結を強め新しい町づくりに邁進いたしたいと存じます。

上ノ国町史に特筆さるべき町制施行に際しわが上ノ国町の限りない発展をねがい全町民の積極的か

新たな決意のもとに
限りなき発展を期待する
北海道知事　町村金五

本村多年の念願でありました町制が、本日施行され、新たに上ノ国町として発足されたことはまことにご同慶に堪えません。

顧みますと、当上ノ国町の発祥の歴史は、遠く鎌倉時代までさかのぼると聞いております。以来幾

われたのであり、この機会に先人各位のご労苦に深く敬意を表する次第であります。

本町は、農業、漁業さらに鉱業など多様な産業形態を有し、またきわめて資源に恵まれており、総合開発の推進とあいまって今後いっそうの発展が期待されているのであり、本町の前途は洋々たるものがあります。

町民各位の熱意ある協力によって、古い歴史に輝く本町が、新しい意欲のもとに一体となって、さらに町勢発展に尽力されるよう期待してやみません。

最後に本町の限りない

町制宣言の瞬間

村役場看板を町役場へ

水田が目立つ大留地区

年表　上ノ国史

明治以前

- 1189年　源頼朝の奥州征伐により多数夷島に渡海
- 1443年　真言宗上国寺草創
- 1454年　武田信廣、夷島に渡海
- 1457年　武田信廣、コシャマインを討つ
- 1741年　大島爆発、大津波により死者1，467人

昭和41年～明治

- 明治元年　明治維新
- 明治11年　勝山小学校開校
- 明治12年　上ノ国村内に3戸長役場設置
- 明治33年　勝山小学校湯ノ岱分校開校
- 明治35年　**上ノ国外六ヶ村を合わせて上ノ国村とし、二級町村制施行**
- 大正9年　悪性流行感冒で死者116名
- 昭和10年　国鉄江差線、湯ノ岱まで開通（翌年全線開通）
- 昭和14年　今井石崎鉱山、八田鉱山（中外鉱山）がマンガン鉱開発に着手
- 昭和24年　早川道路（石崎～中外）開通
- 昭和27年　藤信鉱業桂岡鉱山が鉄鉱採掘開始
- 昭和31年　松崎岩穂著上ノ国村史が発刊
- 昭和32年　汐吹漁港完成
- 昭和33年　天の川永久橋開通
- 昭和35年　花沢館跡、道史跡に指定
- 昭和37年　松崎岩穂著続上ノ国村史が刊行 / 吉堀トンネル完成
- 昭和39年　夷王山墳墓群発掘調査が実施
- 昭和41年　夷王山墳墓群が道史跡に指定

1960年　1950年　1940年　1920年　1900年　1870年　1800年　～

旧若葉小学校校舎(中外地区)

夷王山まつりのモトクロス

旧役場庁舎

町制施行記念パレード

国鉄上ノ国駅での下車風景

石崎漁港改修記念式典の行列

上ノ国地区簡易郵便局前の舗装の様子

汐吹漁港

旧役場庁舎窓口の様子

当時の木ノ子地区国道

湯ノ岱スキー場